

＜今日の説教のポイント 出エジプト記6章14～27節＞

1 系図のイメージは？ 聖書にも色々出て来る系図。

自分の先祖を辿る家系図になぜ人は関心を持つのでしょうか？ それを辿って行けば色んな人、善人悪人すべての人がいたことが分かるでしょう。しかし、載せられるのは載せたい人だけに限られて来るような気がします。聖書にも家系図は色々出て来ます。その目的は何なのでしょう？ この箇所の家系図から考えたいと思います。

2 この系図の特徴① イスラエル（ヤコブ）から始まる系図。

マタイ福音書に出て来る家系図はアブラハムから始まります(1:1)。ルカ福音書に出て来るものはアダム、そして神様まで遡ります(3:38)。この個所の系図はイスラエル（ヤコブ）まで遡っています(6:14、創世記46:8以下)。ヤコブ（神の命でイスラエルに改名 創世記35:10）→イサク→アブラハムにまで遡る「神様が選ばれた民」に属することを示したいのだということが分かります。誰がでしょうか？

3 この系図の特徴② アロンとモーセはヤコブの子レビの子孫。

それはヤコブの子レビに属するモーセとその兄であるアロンです(20)。しかも、この箇所の特徴はさらにアロンの子孫について詳しく述べられていることです(23以下。26と27の書き様、さらに続く内容にも注目)。アロンとレビ族はこの後、神様にお仕えする祭司の務めを果たす一族となるよう任命されます(民数記1:47以下、3:1以下)。6:2～7:13はこの祭司に属する人たちが記した資料だと言われています。

4 神の家族に加わる時、系図はもはや不要になる！

聖書の系図は、それら全てを集めると、本流はなく、色んな人々が用いられてイエス・キリストまで辿り着く系図の束ができるということです。ヤコブの後はヨセフではなく忌々しい出来事が関係します(創世記38章)。聖書の系図を追うと、人間の罪の連続の歴史の中に神の子を与えて下さった神の恵みに驚かされるのです。この神様の赦しの愛に打たれて神様の方に向き直して生き出した者の群れが「神の家族」(エフェソ2:19)なのです。そこに入ったなら、もはや系図は不要なのです。